

計画の評価指標

1. 指標設定の考え方

国は、「健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書(平成 31 年 3 月公表)」にて、「2040 年(令和 22 年)までに男女ともに健康寿命を 3 年以上延伸する」という目標を公表しました。これは、平均寿命が令和 22 年までに平成 28 年比で男性は 2.29 年、女性は 2.50 年延伸すると推計されていることを踏まえ、健康寿命の伸びが平均寿命の伸びを上回ることを目指したものです。この延伸目標が達成されれば、平均寿命との差が短縮し、不健康な期間あるいは要介護期間は短縮することが見込まれます。

平成 28 年の健康寿命は、男性 72.14 年、女性は 74.79 年であることから、令和 22 年までの具体的な目標値は、男性は 75.14 年以上、女性は 77.79 年以上となります。

これを受け、国は令和元年に「健康寿命延伸プラン」を策定し、計画の目標値として定めました。

表 1 健康寿命延伸プランにおける目標値(全国)

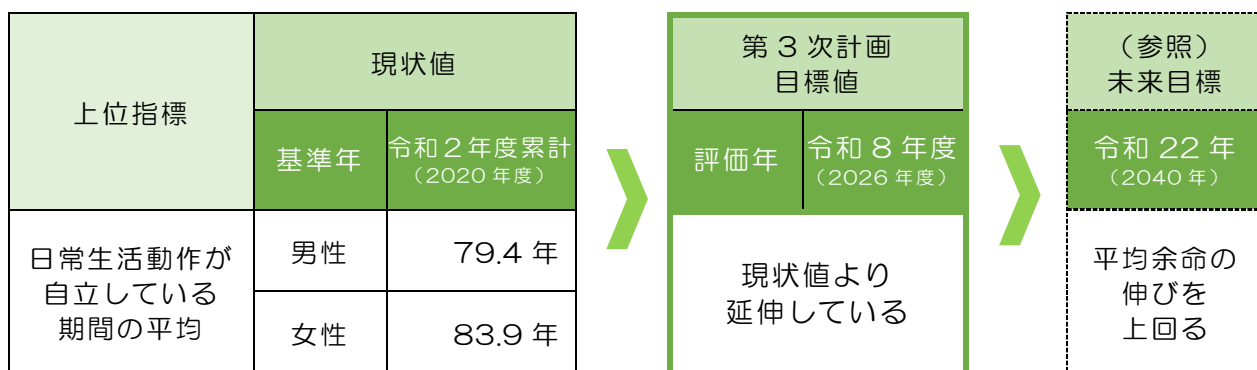
目 標	2040 年までに男女ともに健康寿命を 3 年以上延伸する	
健康寿命	平成 28 年 (2016 年)	令和 22 年 (2040 年)
	基準	目標
男性	72.14 年	75.14 年
女性	74.79 年	77.79 年

国の算出方法と同様に市町村の健康寿命を算出することは、算出に一定程度の人口規模が必要であることから事実上不可能とされています。

そのため報告書では、毎年かつ地域ごとに算出できる補完的指標を活用すべきとし、要介護度を活用した「日常生活動作が自立している期間の平均(要介護 2 以上になるまでの期間)」を補完的指標として利用する考え方を示しています。

2. 計画目標値

本市では国の報告書の考え方を踏まえ、本計画の目標である「健康寿命の延伸」を評価するため、「日常生活動作が自立している期間の平均」を評価指標とし、令和 22 年までに日常生活動作が自立している期間の平均が平均余命の伸びを上回ることができるよう、「日常生活動作が自立している期間の平均が現状値よりも延伸している」ことを本計画の目標値とします。



3. 成果指標

計画目標値を達成するために、計画の成果指標を掲げ取組を推進していきます。

成果指標		現状値	目標値	データ出典
1	健康と思っている市民割合の増加	86.9%	88.0%	富士市 市民健康意識調査
2	習慣的喫煙者割合の減少	25.2%	23.0%	静岡県/特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書
3	大腸がん検診受診率の向上	7.7%	9.0%	地域保健・健康増進事業報告
4	21 時までには就寝する幼児の増加	57.1%	60.0%	3 歳児健康診査問診票
5	肥満者割合の減少	39.1%	37.0%	静岡県/特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書
6	就寝前 2 時間以内の夕食摂取者割合の減少	24.7%	22.0%	静岡県/特定健診・特定保健指導に係る健診等データ報告書
7	健康のために意識的に体を動かすまたは運動をしている市民の増加	57.6%	60.0%	富士市 市民健康意識調査
8	1 年に 1 回以上定期的に歯の検診を受けている者の増加	43.1%	46.0%	富士市 市民健康意識調査
9	口腔機能が低下傾向にある高齢者割合の減少	28.3%	27.0%	KDB システム 後期高齢者健康診査（質問票）
10	週に 1 回以上外出している高齢者の増加	90.5%	92.0%	KDB システム 後期高齢者健康診査（質問票）
11	子育てを楽しんでいると思う保護者割合の増加	89.2%	92.0%	3 歳児健康診査問診票

4. 施策目標値

基本施策の推進を評価するため、すべての取組事業に対し目標値を設定し評価していきます。
以下は、各基本施策に対する主な取組事業とその目標値です。

基本施策1 予防・検診・受診・共生までの一貫したがん対策の充実

取組 NO.	主な取組事業	成果を計る具体的な取組・指標	現状値	目標値
1.1.1	喫煙の健康リスクや受動喫煙防止に関する啓発の推進	富士市版啓発リーフレットの作成・配布	—	累計 4,000 部
1.2.3	がん検診の受診機会の拡充と受診体制の整備	会場型検診の実施	—	実施
1.3.1	がん検診精密検査未受診者対策の推進	5 がん検診の精密検査受診率の平均	82.2% (平成 29 年度)	90.0%

基本施策2 ライフステージに応じた生活習慣病予防と重症化予防の強化

取組 NO.	主な取組事業	成果を計る具体的な取組・指標	現状値	目標値
2.1.1	母子保健事業における生活習慣形成の啓発	幼児健診対象者への富士市版啓発リーフレットの配布割合	99.5% (令和 2 年度)	100.0%
2.2.1	20 時までに食べよう夜ごはん運動の推進	運動実施連携機関の増加	—	15 機関
2.2.4	ふじ健康ポイント事業の実施	ふじ健康ポイント事業登録者数の増加	2,423 人 (令和 2 年度)	8,000 人
2.3.3	肥満者に対する保健指導の実施	国保集団健診会場での肥満該当者への保健指導実施率	53.3% (令和 2 年度)	70.0%
2.3.7	CKD ネットワークや糖尿病ネットワークを通じた保健指導体制の強化	連絡票返信率の増加	50.9% (令和 2 年度)	78.0%
2.4.2	関係機関と連携したオーラルフレイルチェックの推進	オーラルフレイルチェックリストの作成・配布	—	累計 4,000 部

基本施策3 市民の生活圏に即した健康づくり活動の推進

取組 NO.	主な取組事業	成果を計る具体的な取組・指標	現状値	目標値
3.1.2	富士市まちの保健室の開設	まちの保健室開設数の増加	5 地区 (令和 2 年度)	26 地区 (市内全地区)
3.1.5	フレイル予防を推進する町内単位の通いの場の拡充と活動支援	ご近所さんの運動（料理）教室 新規設置数	61 教室 (令和 2 年度)	86 教室 (年 5 教室増)
3.3.1	未来のパパママ支援	事業参加率の増加	45.3% (令和 2 年度)	65.0%

基本施策4 健康づくりを拡げる人材の養成と活用

取組 NO.	主な取組事業	成果を計る具体的な取組・指標	現状値	目標値
4.1.1	健康推進員の養成と活動支援	合同研修の開催・26 地区定例会での学習	年 180 回 (令和 2 年度)	年 279 回
4.2.2	既存団体や民間企業等の人材に対する健康教育の実施	研修講座の開催	—	年 2 回